

～ 夏場の電力不足対策に寄与！～
霞ヶ浦の水を活用し、5月1日発電開始

独立行政法人水資源機構^{みずしげんきこう}では、「地球環境にやさしい事業の積極推進」を掲げて、地球温暖化対策に寄与する施設の整備や新設を進めており、同時に温室効果ガスの排出削減を推進しております。

当機構霞ヶ浦用水管理所では、この温暖化対策の柱の一つとして、CO₂削減に貢献するクリーンエネルギーのしょうすいりょく小水力発電設備をこかいがわ小貝川の右岸側に設置しました。

当機構としては、関東地方で初めての小水力発電設備であり、既存のパイプラインを有効活用して発電を行うのは、全国的にも珍しいものです。

本設備は、経済産業省の「地域新エネルギー等促進事業」の補助を受けて、平成22年4月に工事着手し、平成23年4月の供用開始を予定していましたが、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、供用開始が延期となっていました。

今回、5月1日より供用開始できることとなりましたので、お知らせします。

この施設により発生する電力は、年間で一般家庭約220戸分に相当します。施設管理のために使用するとともに、余りは(株)東京電力に売電して一般家庭に供給することで、関東地方の電力不足に対しても一助になると期待されています。

小水力発電設備の概要は、別紙のとおりです。

平成23年4月22日



独立行政法人水資源機構 霞ヶ浦用水管理所

発表記者クラブ

土浦記者クラブ・筑西市記者クラブ・水資源記者クラブ

問い合わせ先

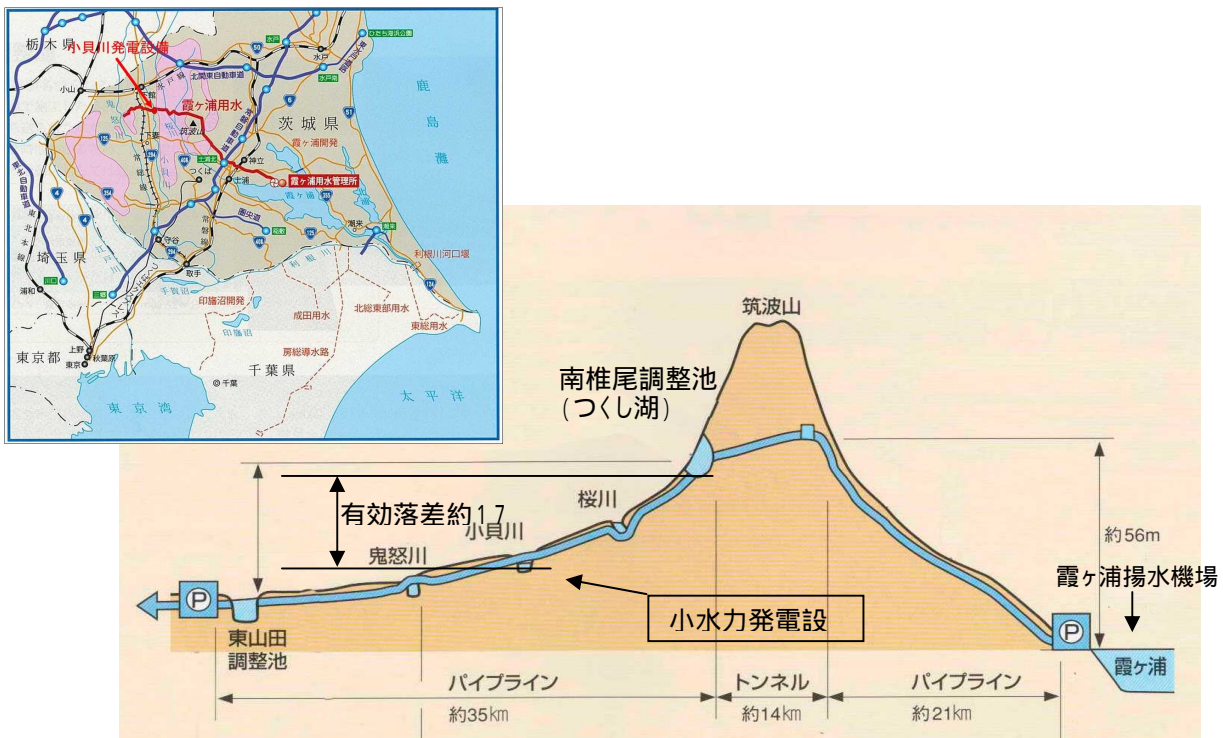
独立行政法人水資源機構霞ヶ浦用水管理所
所長代理（事務）伊藤 保（いとう たもつ）
所長代理（技術）塩津 徹（しおつ とおる）
電話：（029）898 - 2212
FAX：（029）898 - 2229

小貝川小水力発電設備の供用開始について(お知らせ)

標記について、H23年3月11日に発生しました東北地方太平洋沖地震により、供用開始が延期となっておりますが、平成23年5月1日より供用開始できることとなりましたので、お知らせします。

【小水力発電設備の概要】

小貝川小水力発電は、小貝川注水時の落差(約17m)を利用して発電を行い、CO₂を排出しないクリーンエネルギーとして、地球温暖化対策に貢献するもので、経済産業省の地域新エネルギー等促進事業の補助を受けて、実施しました。



発電施設の諸元

有効落差:最大 約17m

使用水量:最大 0.769m³/s

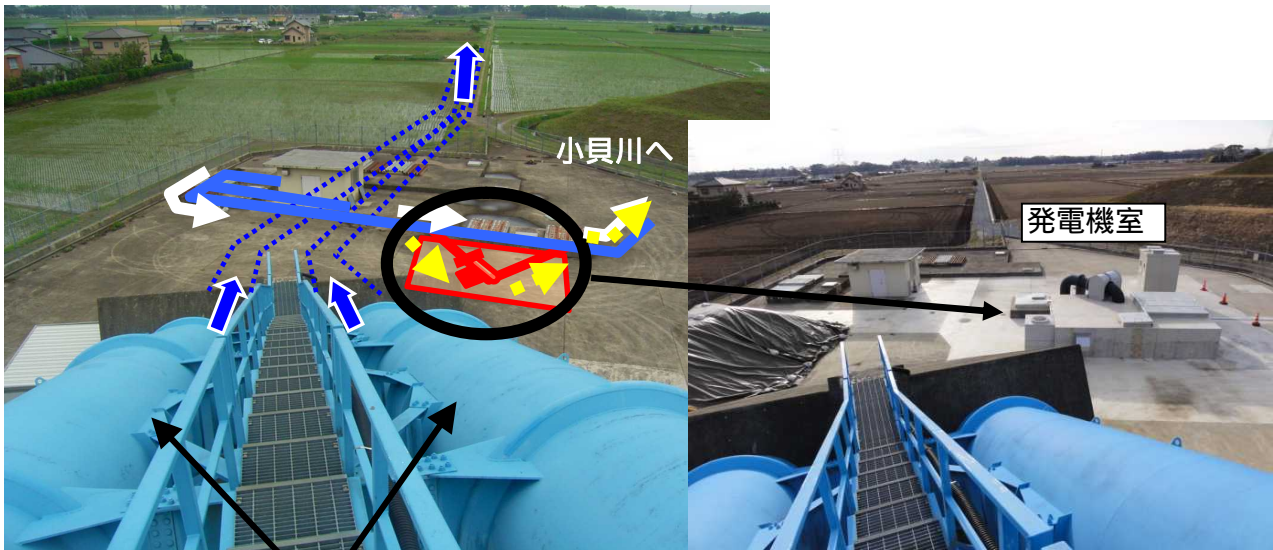
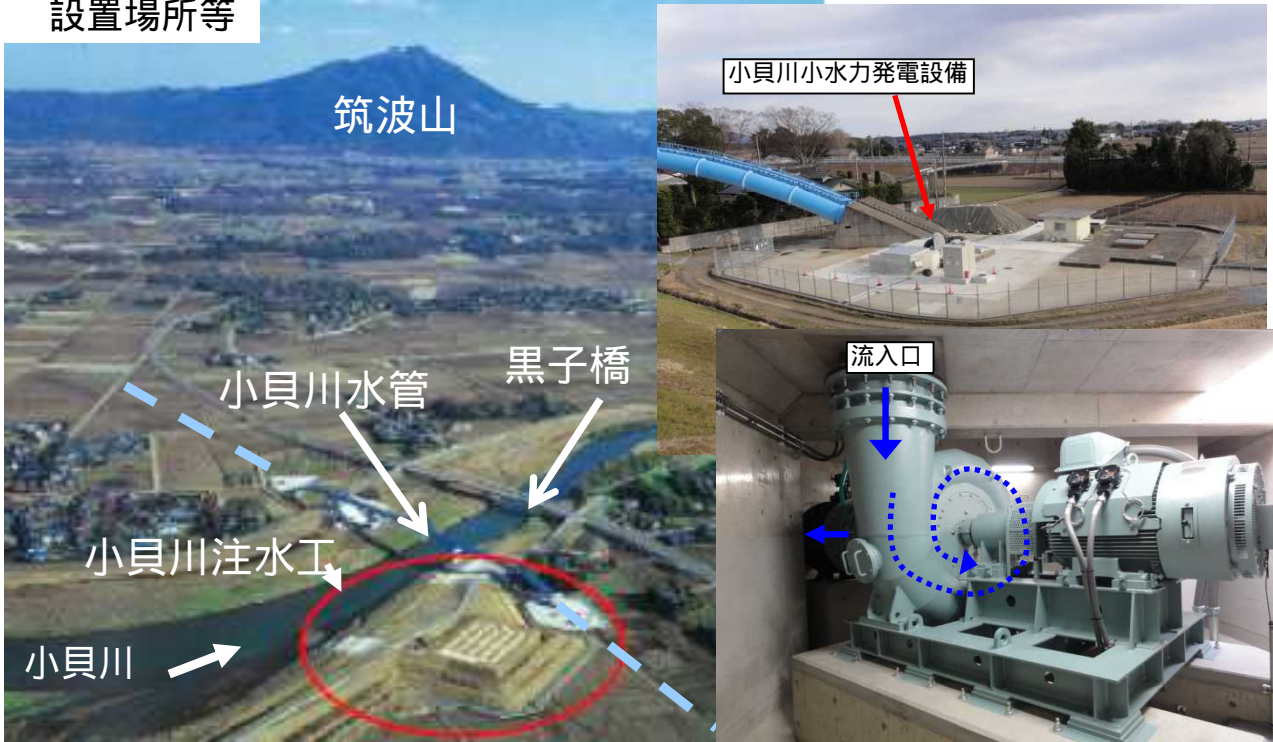
最大出力:110KW

発生電力量:約810MWh/年間 一般家庭約220戸分に相当

CO₂削減効果:約410t-CO₂/年間 一般家庭約80戸分に相当

設置場所:筑西市辻地内(県道明野間々田線 黒子橋付近の小貝川右岸側)

設置場所等



霞ヶ浦用水
(小貝川水管橋)

霞ヶ浦から取水(かすみがうら市牛渡地先の霞ヶ浦揚水機場)された水の一部は、小貝川へ放流(筑西市辻地先の小貝川注水工)されています。放流された水は、茨城県企業局の工業用水として水海道及び取手地点で取水されています。